

男女共生社会推進センター

らびる

～男女共生社会づくり～



※%表示は小数第2位を四捨五入しています。

CONTENTS

特集 男女共同参画 県民意識調査……1・2

リレーエッセイ 松浦篤子さん……3

ふろむ振興局／推進事業者訪問……4

講座レポート……5・6

チャレンジカフェ／推進課インフォメーション／相談室から……7

“らびる”をご利用ください

○図書・情報資料室

図書・DVDが2週間まで借りられます。センター内で閲覧もできます。

○貸室(無料)

研修室(81席)、技術講習室(30席)、一時保育ルーム
2ヶ月前から予約申込みできます。

○自主企画グループ募集

男女のこれからの生き方を考えるものなど、自主企画として認定されれば、3ヶ月前から貸室の予約ができます。またセンターが広報をサポートします。

男女共同参画に関する県民意識調査結果



高橋副主査

和歌山県では県民の生活及び意識の実態を把握し、県男女共同参画推進条例第7条に定める基本計画の改定に当たっての基礎資料とするため平成18年7月～8月に意識調査を実施しました。

調査を担当した男女共生社会推進課の高橋淳子副主査にお話を伺いました。

りいぶる 今回の意識調査の結果からどんなことが言えますか？

高橋さん そうですね、まず男女の平等意識についてですが、男女ともに「社会通念・慣習・しきたり」の面で男性優遇と感じている人は半数を超えています。他にも、家庭生活、政治の場、職場で男性優遇と感じる人が多いですね。社会全体でも64.7%が男性優遇と感じています。

「男は仕事、女は家庭」といった男女の決められた役割分担意識について、平成14年度に行った前回調査と比べ、大きな変化は見られませんが、男性で肯定的な意見が増加しています。

りいぶる 男性で増えている？

高橋さん はい。今回の調査では、男性で「賛成である」という意見が減少しているものの、「仕方ないと思う」という意見が増加しました。まだまだ男女共同参画に関して、男性への意識啓発が必要だと感じています。

結婚に対しては男性より女性の方が負担を感じる割合が高いという結果になりました。家事や育児、介護で負担感が高いんです。

りいぶる 役割分担で、女性に負担がしわ寄せされている…

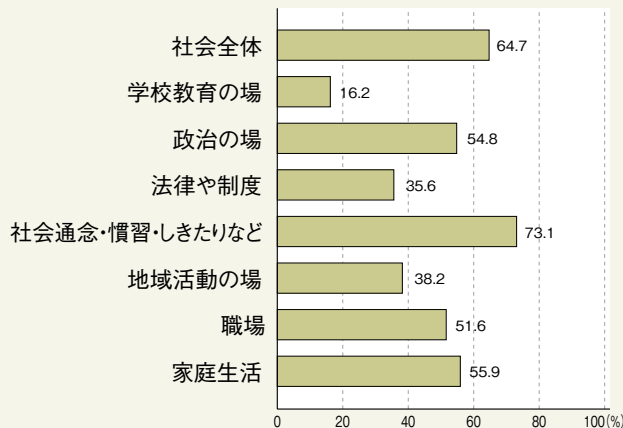
高橋さん 実際の家庭生活でも女性が家事等を担当している割合が高いですね。でも、「性別による分担をせず、夫婦にあったかたち」を理想とする女性も多いんですよ。男女とも、それぞれの個性にあった生き方を考え、仕事と生活の調和のとれた働き方ができるよう、各種支援サービスや情報提供を充実させることが重要ですね。

りいぶる 最近よく新聞などでも話題になる「ワーク・ライフ・バランス」。仕事と家庭の両立ですね。

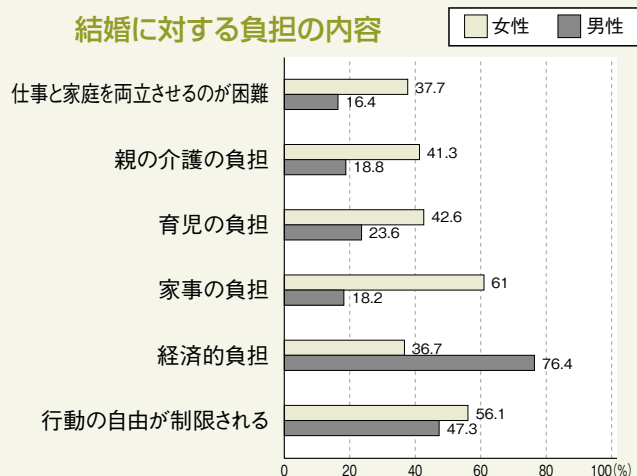
高橋さん そう。でも結婚や出産を機に仕事を辞める女性も現実には多い。社会全般的には「母親は育児に専念」という意識が強いという現実がみられます。男女を問わず育児・介護休暇等が取得しやすく、復帰しやすい職場づくりが企業に求められています。

りいぶる 地域活動への参加はどうなっていますか？

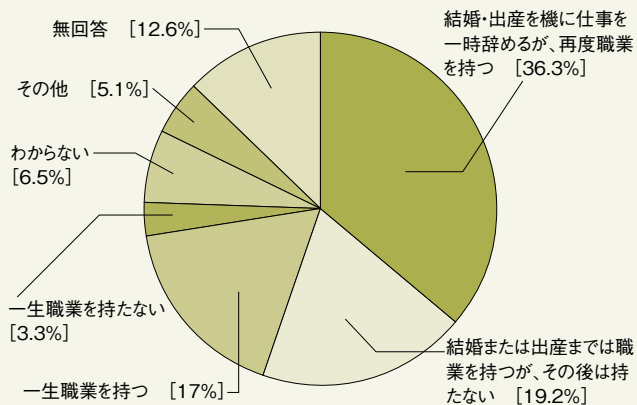
各場面で男性優遇と感じている人の割合



結婚に対する負担の内容



実際になりそうな(現実になりそうな)女性の生き方



高橋さん 若い世代で地域活動への参加が少ない状況にあります。今回は、防災活動についても調査したんですが、女性の方が参加した割合が少なくなっています。

りいぶる 日頃から防災訓練など、地域の活動に参加することが必要ですね。

高橋さん それだけでなく、防災活動は男女双方の視点に立つことが重要です。避難生活で最も気がかりなのは「トイレ・風呂など衛生面のこと」ですが、特に女性の方が高くなっているなど、男女の間で若干違いがあるんですね。

りいぶる 女性の人権についてはどんな調査結果が出ていますか？

高橋さん はい。夫婦や恋人間の暴力(DV)について、メディアを通じて問題になっていることを知っている人は6割強いました。「身近に暴力を受けた人がいた」という人や「うわさを聞いたことがある」という人は2割近くいました。その一方で相談窓口の認知度は、警察署以外はまだまだ低い状況にあります。

りいぶる “りいぶる”でも電話相談等行っていますが、まだまだ相談窓口の存在について周知する必要がありますね。

高橋さん 性犯罪やDVをなくすためには「被害届が出しやすい環境」のほか、「被害者保護・救済対策」、「性を商品化した番組やビデオソフトの規制」を求める声も女性に多いですね。

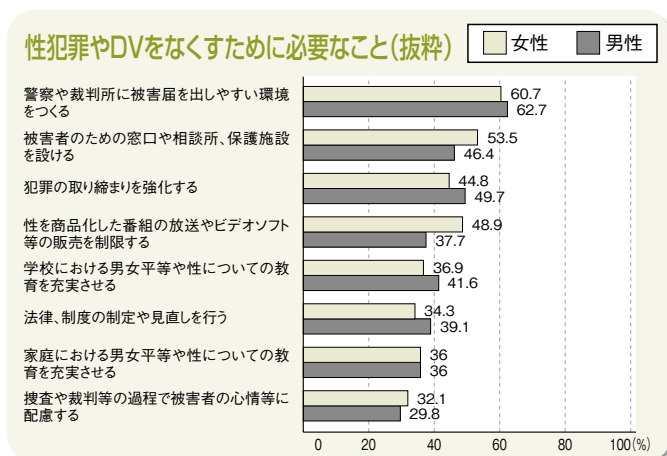
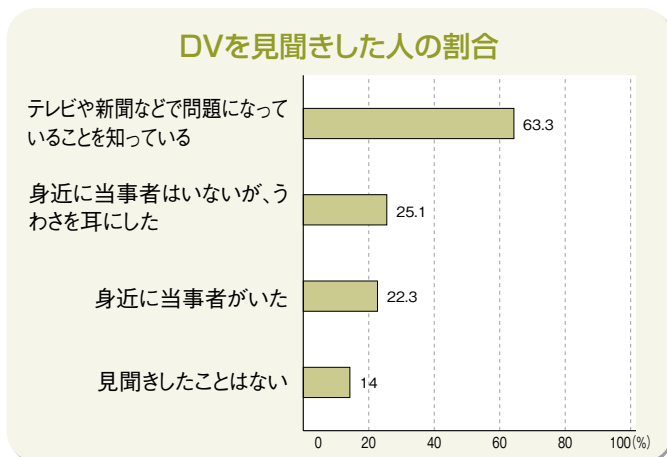
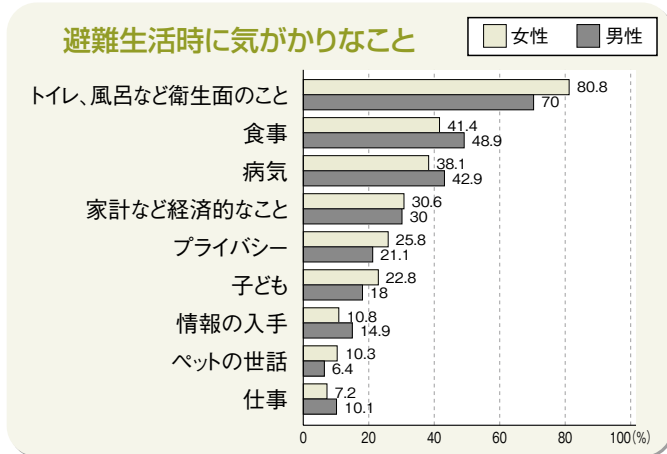
りいぶる インターネットなどの新しいメディアへの対応も課題ですね。

高橋さん 最後に施策の認知度ですが、「ポジティブ・アクション」や「女性のエンパワーメント」、「女性のチャレンジ支援」など、政策的な言葉の認知度は低くて、まだまだ男女共同参画を推進する必要性について広報していかなければなりません。

りいぶる “りいぶる”も約3割の方が知っていただいているんですね。次回調査の時はもっと知っている人が増えるようがんばります。

高橋さん 行政組織は男性優位社会なので女性の進出が阻まれているという意見も多いですね。男女がともにいきいきと暮らしていけるよう、県として、今後も男女共同参画社会づくりを一層すすめていこうがんばります。

調査結果はホームページでご覧になれます。
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031500/index.html>



男女共同参画の言葉についての認知度

※内容まで知っている・言葉のみ聞いたことがあると回答した人の割合 (単位:%)

男女雇用機会均等法	83.4
育児・介護休業法	73.2
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	66.4
男女共同参画社会基本法	47.9
社会的性別(ジェンダー)	37.5
和歌山県男女共生社会推進センター「りいぶる」	31.6
和歌山県男女共同参画推進条例	28.4
次世代育成支援対策推進法	26.3
女性のチャレンジ支援	17.1
女性のエンパワーメント	10.7
ポジティブ・アクション(積極的格差改善措置)	16.9

“いびる”リレーエッセイ⑫

人生一度きり 夢中になれること 今しかできないことを!



松浦 篤子 (まつうら あつこ)

1958年和歌山県橋本市高野口町生まれ。結婚後和歌山市へ。1996年、女性の交流サークルで出会った仲間と共に、情報誌編集グループ「ら・ふあむ編集局」を結成。女性の生き方を共に考える情報誌「LaFemme」を年1回、4号まで発行。2001年4月に紀北エリアの読売新聞折込み月刊紙「まんすりーLaFemme」を創刊し、編集活動中。家族は夫と三女。

～和歌山の魅力を再発見できる情報紙を～

「女性の充実した生き方をいっしょに考えよう。そのための情報を自分たちで集めて冊子をつくろう!」そんな思いを共にした仲間たちと立ち上げたグループ「ら・ふあむ編集局」の活動は、早いもので11年目に入りました。素人丸出しの取材や編集を重ねながら、悪戦苦闘の日々。失敗も多々ありましたが、とりあえず今日まで続けてこられたのは、信頼できる仲間と、応援してくれる方々がいたから、そして何よりも私自身がこの仕事の面白さにはまってしまったからです。

現在は、紀北エリアに配布の読売新聞折込み月刊紙「まんすりーLaFemme」を編集しています。テーマは「夢、元氣、楽しい暮らし再発見」。個人の生き方やグループの活動紹介、県内各地のイラストマップやお薦めのショップ紹介など、地域密着型でバラエティに富んだ紙面を心がけています。地域情報紙編集の醍醐味は、知らない場所を訪ねたり、いろいろな人と直接会って話を聞くことで、気づかなかった和歌山の魅力を再発見できることかもしれません。和歌山には素敵な場所や物がいっぱいあって、頑張ってる人たちがたくさんいることを自身で体感しながら、それをリアルに伝えていくことができたらと思っています。

～あなたはどんな生き方をしたいですか～

「LaFemme」はフランス語で「女性」を意味します。「女性それぞれの生き方や考え方を認め合い、応援し合っていくための媒体でありたい」という思いが常にベースにあります。フロントページでは毎号、和歌山の様々な分野で活躍している女性をクローズアップし、その生き方、夢、社会に向けてのメッセージなどを紹介しています。

取材を通して多くの元気な女性達に会え、その思いに触れることができました。百人いれば百通りの個性があり、生き方があります。仕事、まちづくり、



まんすりーLaFemme 2007.3月号

芸術活動…それぞれが取り組んでいることや目指していることはもちろん違いますが、パワフルな行動力や情熱やチャレンジ精神に圧倒されそうになります。でも伝えたいのはサクセスストーリーではなく、彼女たちの多様な生き方です。以前に、女性読者から「紙面に登場する人たちはみんな活動的ですよいなあとと思います。それに比べて、私はこのままでいいのかなと思うことも…」というお便りを戴きました。続いての文面にはこうありました。「でも、家族を笑顔でいっぱいにすること。それが今の私にとっての一番のかなと思います」。ほんとにその通りだと思います。それぞれ違う環境のもとにいて、性格も好みも適性も違うのですから、生き方も人それぞれで当たり前。社会でバリバリと働くのもよし、居心地の良い家庭の真ん中にいるのもよし。人生は一度きりで、その主役はほかの誰でもない自分自身です。大切なのはその人自身が選択し、納得し、満足できる生き方をするということではないでしょうか。

～人生の勝ち組は…～

「勝ち組、負け組」という言葉を最近時々耳にしますが、あまり好きな言葉ではありません。何を勝負して誰が勝敗を決めるのでしょうか。経済的に豊かであれば勝ちなのでしょう。でも、もし人生に勝ち組があったら「楽しんだ人が勝ち!」といえるのでは。面白おかしく日々を過ごせばいいと言っているわけではありません。夢中になれるもの、わくわくするようなことを見つける達人になることです。他人から「何のためにそんなことに一生懸命になっているの」と言われるような些細なことでも、自分が楽しくて幸せを感じられるのならそれでOKです!

先日、以前に紙面で紹介した沖縄芸能グループのコンサートを見る機会がありました。その舞台に知人を見つけビックリ!入会のきっかけは「ら・ふあむ」の記事だったとのこと、ほんとにこんなうれしいことはありません。私の今の目標は、そんな「わくわく」を見つけるきっかけがいっぱい詰まった紙面を作ること。これからもアンテナをいっぱい立てて、和歌山の宝探しをしていきたいと思っています。

ふたね賀振興局

岩出ふれあいまつりで男女共同参画を啓発



岩出市で、平成19年3月4日に「岩出ふれあいまつり」が岩出市総合保健福祉センターで開催されました。その中で、岩出市男女共同参画推進員の皆さんで作ったリーフレットと、平成18年度和歌山県男女共生行政推進支援事業で作成した「男女共同参画社会を目指す岩出市の取り組み」のパンフレットを配布し、男女共同参画の啓発を行いました。呼び込みの拍子木につられ、男女共同参画コーナーでは親子連れ、おじいちゃんお婆ちゃんたちで盛り上がる中、男女共同参画推進員の方々による絵本の読み聞かせ、ペープサート劇、ぬりえ体験が実施されました。

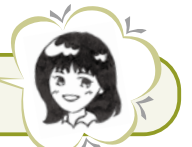
日頃から、保育所などで出張紙芝居や絵本の読み聞かせを行い、子どもたちが成長して紙芝居や劇の男女共生についての意味がわかってもらえる日が来ることを願い頑張っています。

ペープサート劇では、人権読本きりりの中から、「こどものつぶやき」と題し、「男の子でもスポーツの苦手な子、勉強は苦手でもスポーツは得意な子、女の子でも野球部に入りたい子やパイロットになりたい子など、男の子だから、女の子だからってということにとらわれず、本当の自分を見つめ、何をしたいか、何になりたいのか考えてみようよ。いろんな人がいて、あたりまえ。いろんな生き方があって、いろんな夢がある、あなたたちは、その夢にまっすぐ進んでいこう。それがあなたたちの権利。世界のみんなが、あなたたちに期待しているよ。」という話が演じられました。



男女共同参画推進事業者訪問

このコーナーでは、県に登録された事業者さんから直接お話を伺い、その取り組みぶりなどを、紹介します。【木村レポート④】



前田 効多郎 取締役会長
楠本 大 代表取締役

株式会社 れもんケア

れもんケアでは正社員・契約社員併せて105名の職員が業務にあたっています。男女の割合は男性がおよそ2割で女性が多数を占める会社です。

会社全体で「仕事と家庭の両立」を支援する雰囲気づくりを心

かけており、男性職員が、こどもの授業参観で休暇をとることもしばしばだそうです。また契約社員の中には9時から14時という短時間勤務や、在宅勤務に近い仕事もあり、小さい子どもを抱えていても仕事と家庭の両立ができるように工夫しています。

さらに現在、打田町のれもんケアの事業所の前には、グループ会社が運営している保育園があり、職員が子どもを預けて出勤することができます。こうしたサポートがあれば安心して仕事に取り組むことができます。「これから企業内保育のような形でそうしたサポートを増やしていきたい」とのことです。また、「資格を持っていても、子育てのために職場を離れていた期間が長いとブランクがあるので社会に出るのがこわいと考えてしまう人がいます。れもんケアでは充実した研修制度でサポートしているので、せっかく身につけてある資格を埋もれさせずにぜひ福祉の仕事に挑戦してほしい。介護の現場は常に人が不足しているのです。」とお話も聞かせていただきました。

介護のニーズは日々高まっています。そんな中でサービスを利用する人はもちろん、福祉の仕事に従事する人々にとっても安心して働くことのできる環境づくりの重要性を感じた事業所インタビューでした。



次長
首藤 由貴夫

商工組合中央金庫

和歌山支店

今回は中小企業専門の金融機関である商工組合中央金庫(略称:商工中金)の取り組みについて取材しました。

商工中金では自治体の施策にあわせたローンを創設する取り組みをしており、和歌山支

店では、県の施策と連携して「わかやま子育て・女性応援企業ローン」を創設し、女性起業家や女性の社会進出および子育て促進に貢献している企業に対して融資を行っています。

また、職員に対しても、「NO残業デー・NO残業週間」を設けています。その他、年次休暇とは別の有給休暇として「出産休暇」(職員本人が出産する場合に産前産後14週)や「看護休暇」(小学校就学前までの子の看護をするとき。年に5日、半日単位での取得も可能)の取得が可能です。産休や育休も現在、年に1人のペースで取得があり、休暇前と同じ職場に戻れることや定時には帰宅できるなど、職場全体で仕事と家庭の両立を支えています。

現在、起業を目指す女性が増えています。また女性の労働力が必要とされるようになり、子育て支援など家庭と仕事の両立に取り組む企業を多く目にするようになりました。「そうした女性の社会進出や、子育て促進に貢献している企業を金融と情報の両面から積極的にサポートしていきたい」とお話をいただきました。

チャレンジ支援「女性起業塾」

起業で自己実現・経済的自立・社会貢献したい女性を対象に、女性起業塾を開講しました。昨年9月から2月にかけての土曜・日曜の合計5日間、午前10時から午後5時というスケジュールで、20名のみなさんが熱心に受講されました。

女性のライフサイクル、起業家としての心構え、開業準備に必要な基礎知識、ビジネスプラン作成など起業に向けて実践的な内容をはじめ、専門コーディネーターによる一人ひとりにあわせた個別起業コンサルティングも実施。最終回では1人1台のパソコンを使って、ホームページ作成も集中実践で学びました。税理士の上野隆也さんによる「会社の家計簿・税務署とのおつきあい方法・改正会社法」では、みなさんQ&Aタイムで盛り上がりました。

実際に会社を設立した憧れの先輩モデルの体験談をうかがったり、名刺交換会も。名刺交換が初めての人も、ちょっぴり照れながら名刺交換デビューを果たしていました。また「あの人の話が聴きたい!」というコーナーでは、憧れの人をゲストにお招きしました。雑誌やテレビでも話題の、大阪で人気のカフェ「玄米カフェsangmi(サンミ)」オーナー大塚三紀子さんや、和歌山・田辺を拠



点に必要な基礎知識、ビジネスプラン作成など起業に向けて実践的な内容をはじめ、専門コーディネーターによる一人ひとりにあわせた個別起業コンサルティングも実施。最終回では1人1台のパソコンを使って、ホームページ作成も集中実践で学びました。税理士の上野隆也さんによる「会社の家計簿・税務署とのおつきあい方法・改正会社法」では、みなさんQ&Aタイムで盛り上がりました。



点にパソコン教室や人材派遣に活躍されている(株)オフィスメイト代表取締役の坂本昇子さんにもお越しいただきました。それぞれの「OLから起業家へ」のお話に受講生のみなさんは真剣なまなざしで聴き入っていました。起業家の先輩から、後輩への温かいエールに、起業への意欲をさらに熱くしたことと思います。

ここで、受講された生徒のみなさんからのアンケートの一部を紹介します。「想像以上に本格的な内容で驚きました。グループでたてたビジネスプランがリアルで楽しかった。」「起業をめざす《仲間》と出会い、交流の大切さを知った。この5日間を無駄にしないように頑張っていきます。」「すぐにもでも起業をしたかったが、起業を甘く考えていた自分に気づくことができた。プランを練り直して必ず起業にチャレンジしたい。」「起業家の先輩方のお話を間近で聴けてエネルギーがわいてきました。起業を通じて私らしさを発揮できるのと同時に、社会貢献してお役に立ちたい。またいつかどこかでみなさんと名刺交換できるように、私も起業の階段をのぼります。」など、元気いっぱいの想いが届けられました。みなさんの今後の活躍を、「りいぶる」スタッフ一同期待しております。



男女平等意識啓発セミナーを2月24日(日) 那智勝浦町体育文化会館にて開催しました

THEMA [テーマ] 「はつらつ生きて生きて輝いて」～今より少し自由に生きられるための秘訣～



テレビ・ラジオ・執筆などで幅広く活躍中の遙洋子さんが仕事や結婚について体験を交え熱く話されました。芸能界での経験や大学での受講で学んだこと、また親の介護体験など、これまでの人生を顧みながら、女性として自分が選んだ道の中で幸せを見つけ、良い人生を好きに生きたと思えるように努力してほしいと話されました。関西弁で軽妙に話される会場はたびたび笑いの渦に包まれ、分かりやすく、面白く、パワーのあるお話に、皆さんはたくさんの

気づきと元気をもたらしたことでしょ。

オープニングは、太地町のアマチュアバンドグループ「BBらいぶ」のウェルカム演奏。230名の皆さんにご参加をいただき、土曜の午後を音楽と講演で楽しんでいただきました。

また、いなほ作業所、南紀ひまわり作業所の皆さんが心を込めて焼いたパンやクッキーなどの販売もありました。参加者の皆さんから、たいへん好評でした。



りいぶるdeさんかくトークを開催しました!



▲グループワークでの様子。活発に意見交換しました。

THEMA [テーマ] 「災害と女性の人権」

講師 神阪 登茂子 (こうさか ともこ)さん
[できたねプロジェクト主宰]

「あなたがまちを元気にする!」をコンセプトに県内7カ所で開催しました“りいぶるdeさんかくトーク”。7会場あわせて220名の皆様方に参加いただきました。神阪さんは阪神淡路大震災等の事例を例示しながら、災害時において守られるべき女性の人権についてお話されました。神阪さんのお話のあと、参加者は災害が起こったときどのような点に配慮すべきなのか、自分たちに何ができるのかなどについて話し合いました。

○避難所生活の中で必要なもの○

「明るい場所に女性専用のトイレ」
「授乳室」 「間仕切り用ビニールシート」
「カウンセラー」 「警備をしてくれる人」

一部紹介
します

○わたしたちに出来ること○

- 自分の安全を日頃から考え、家族と話し合い、地域においても信頼関係を築き、安全な場所・方法を伝えていく
- 相手がどんな援助をしてほしいか日頃から相手の気持ちを聞いておく
- 家族とのコミュニケーションをとって今までやっていなかったことを少しずつやっていくようにする



▲たくさんの意見が出されました

“りいぶるdeさんかくトーク”のグループワークの内容やアンケート結果をまとめて報告書にしています。報告書については“りいぶる”までお問い合わせください。

りいぶる
わいわいサロン

「じぶんノート」をつくる を開催しました。

～ものづくりを通して心とからだの声をきく～

今回のりいぶるわいわいサロンは、2月24日(土)、13:30～16:30、アートユニットmonkeyのおふたりを迎えて開催しました。自分の正直な気持ちを大切に書きとめていくための「じぶんノート」について、簡単な製本の方法を学び、自分のこころとからだの声に気付くきっかけになる時間を、参加されたみなさんとゆっくりお茶を飲みながら過ごしました。

「じぶんノート」とは、「自分の」と「音」とをかけて名付けたもので、人には見せない、分析しない、答えを出さなくてもいい、方言を書き連ねてもいい、等書いたものをそのまま自分で受け容れるためのノートです。すべての感情には理由があり自分の中から生まれてくるものだから大切にしたい。手間暇かけて面倒なことをするのが人間には大切なこと。今の自分の体の状態はどうかということに気付くことが大切。緊張して力が入っていると心も体も疲れてしまうので、スイッチを切って心も体も休めてほしい。

自身も、書くことによって五感を使うようになったし、見えないうものが見えてきた。感覚を敏感にするためにも物を作る、とmonkeyさん。

お茶の後はパステルやクレヨンによる色のワークショップを楽しみました。「今私はいったい何色がほしいのだろう?」。社会的に作られた色のイメージや普段好きな色のことはここではちょっと横に置いておいて、目の前にある色を楽しみました。「気持ちいい」を味わい、「評価する」をしないのです。感情のリズムに合わせて自由に色を選んで塗りました。そして、自分が塗った絵をゆっくり眺めてみることで、普段は気付かない自分の気持ちとじっくり向き合う時間となりました。



チャレンジカフェがリニューアル♪

昨年からりいぶる交流サロン内にオープンしたチャレンジカフェ。担当コンシェルジュによる女性のチャレンジ支援に関する情報提供サービス、キャリアカウンセラーの専門家によるチャレンジ・キャリア・コンサルティングの実施。カフェをオープンしてからの8カ月間で、のべ242人の方にご利用いただきました。

4月からはチャレンジ・キャリア・コンサルティングの時間枠が広がり、ご参加いただきやすくなります。



●チャレンジカフェ

毎週火曜・木曜と6/9/12/3月の第1土曜の
10:00～16:00オープン。

(お昼12:00～13:00は係りの対応はお休みをいただきます。)

※偶数月の第4木曜のみ、カフェの時間は14:00～20:00に変更となります、ご了承ください。

●チャレンジ・キャリア・コンサルティング

- ①第2木曜(毎月)14:00～16:00昼の個別コンサルティング
- ②第4木曜(奇数月)10:00～12:00朝の個別コンサルティング
- ③第4木曜(偶数月)18:00～20:00夜の個別コンサルティング
- ④6/9/12/3月の第1土曜14:00～16:00土曜昼の個別コンサルティング

いずれも事前予約制・おひとり25分まで、定員4名。費用は無料です。予約がない時間は、当日グループコンサルティング～気軽に話し合う場～としてお使いいただけます。

◎予約電話はこちら◎

☎073-435-5245 (チャレンジ担当まで)

- 県内各振興局への移動りいぶる“チャレンジカフェ”も開催予定(9月から2月までの第3木曜と3月の第1木曜)
- チャレンジカフェのプチイベントも開催予定(12月はクリスマスイベント) 詳細が決定次第、“りいぶる”HPでお知らせします。

男女共生社会推進課 いんぷおめーしょん

Information

男女共同参画推進事業者を 新たに登録しました。

株式会社勝浦オークワ(登録番号男女第15号)

所在地	那智勝浦町	業種	一般小売業 (スーパーマーケット)
<ul style="list-style-type: none"> ○男女の違いなく管理職等に登用し、リーダーとしての能力発揮に努めている。 ○『セクハラ防止規程』を定め職員に周知している。 ○相談窓口を設け、様々な会議の機会等を利用して社員に対して研修を実施している。 			

キリンビール株式会社和歌山支社(登録番号男女第16号)

所在地	和歌山市	業種	ビール・医薬品の製造・販売
<ul style="list-style-type: none"> ○性別にとらわれない、公正な採用活動、人事制度の運用を行っている。 ○法定内容を上回る産前産後休業制度、育児休業制度を導入している。 ○法定内容を上回る子の看護休暇制度を導入している。 ○ベビーシッターや育児支援施設利用について、費用の一部補助制度を導入している。 ○安心して産休、育児休業を取得できるための各種情報提供の仕組みを導入している。 ○セクシュアル・ハラスメント防止のための啓発研修を実施するとともに、相談窓口を設置している。 			

“りいぶる”相談室から

～あなたはあなたのままで～

“りいぶる”では、女性が抱える様々な悩みを受けとめ、自分らしく生きるためのサポートをしています。

先ずはどんなことでもお電話ください。

相談専用電話 **073-435-5246**

- ◇総合相談◇
毎週月～土曜日[面接相談]9:00～17:30 [電話相談]9:00～20:30
- ◇女性のためのカウンセリング◇
毎月第1～3金曜日13:00～17:00[要予約]
- ◇女性のための法律相談◇
月3回13:00～16:00[要予約]



企画・発行

和歌山県男女共生社会推進センター

りいぶる

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛9F
TEL (073) 435-5245・FAX (073) 435-5247
URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031501/index.html>

開館時間 午前9時～午後8時30分 休館日 毎週日曜日・国民の休日(祝日) 年末年始(12月29日～1月3日)

“りいぶる”では皆さまのご意見、感想、情報をお待ちしています。[メールアドレス]e0315011@pref.wakayama.lg.jpまで

